

第8回 IMADR グリット・部落差別プロジェクト研究会

人権と開発 SDGs の視点から

— 誰も置き去りにしないために —

講師 ほくごう み ゆ き **北郷美由紀さん** (朝日新聞記者)

政治部、国際報道部、オピニオン編集部を経て2017年1月から始まった特別企画「2030 SDGs で変える」を担当。これまで接点のなかった人々を会わせるSDGsの「接着剤効果」を日々、実感している。



主催：反差別国際運動 (IMADR)
科学研究費 (基盤研究 (C)) 「グリット女性および部落女性における複合差別とエンパワメントに関する国際比較研究」 (課題番号：17K02097、代表：熊本理抄)

お申込み：event@imadr.org

イラスト：アジアグリット権利フォーラム

2018年7月7日 (土)

午後2時～4時30分

HRCビル 5階会議室

大阪市港区波除 4-1-37

JR・地下鉄「弁天町」徒歩10分

参加費：800円



IMADR は世系に基づく差別撤廃を旨としています。この差別を受けている最大のコミュニティである南アジアのグリット (人口にして約2億人) は、その多くが基本的な人権さえ十分保障されず、開発から取り残されてきました。持続可能な開発の目標には、周縁に追いやられたコミュニティの現状の理解と発展プロセスへの包摂の保障が必ず含まれていなくてはなりません。

世界の重要課題で、「誰も置き去りにしない」を基本理念とする SDGs について、記者として深く関わっておられる北郷さんをお迎えし、たっぷりとお話をさせていただきます。



◆ SDGs とは (国連広報センターより)

“2030年までに貧困に終止符を打ち、持続可能な未来を追求しよう”。大胆かつ新しい「持続可能な開発のための2030アジェンダ」が2015年9月に国連総会で採択されました。そこに盛り込まれているのが、世界を変えるための17の目標「SDGs」。途上国も先進国も含めた世界中の一人ひとりに関わる取り組みで、2016年1月から実施が始まっています。

